石川・南新保北遺跡

1 所在地　石川県金沢市南新保町
2 調査期間　二〇〇二年（平14）六月～七月
3 発掘機関　金沢市教育委員会
4 調査担当者　庄田知充
5 遺跡の種類　集落跡もしくは居館跡
6 遺跡の年代　弥生時代終末期～古墳時代前期、鎌倉時代～室町時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、金沢市域の北西部を流れる浅野川西岸の標高約二・七mの扇状地端部に位置する。遺跡は畑地および果樹園となっていた現地表の下約二〇cmに良好な状態で残っていた。調査面積は六五〇㎡。

遺跡周辺は地形上、近年まで自噴湧水に恵まれており、周辺には弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺跡が数多く立地する。調査では、弥生時代終末期から古墳時代前期の溝・土坑・柱穴と、鎌倉時代から室町時代（一三世紀末～一四世紀）の溝・井戸・柱穴群を検出した。南新保は中世において加賀国石川郡倉月庄内にあり、倉月庄に関する記述は一三世紀から文献史料に散見される。今回の調査地はその荘域内にあたると考えられ、検出した遺構はこの荘園に関連する集落か居館の施設であろう。

調査区南東隅で検出した中世の溝は、直線的に南西から北東に流れ、幅約三m深さ約三二cmを測る。溝の東岸には柵列と思われるピット群が検出された。この溝の東側約三mには、平行する同規模の溝が存在する。また、調査区の南西部では、中世の井戸四基を検出した。そのうちの二基の井戸では、井戸枠として板材を曲げ樺皮で縫いとめた木製曲物を使用していた。木簡は井戸の一基から出土した。

木簡が出土した井戸は、調査区の南側に位置し、長径約一・二m短径約一m深さ約一・五mの楕円形掘形をもつ。直径約五八cm高さ約五四cmの曲物井戸枠が遺存していた。本来は同法量の曲物を縦に三段積みにしていたと考えられるが、遺存していたのは最下段のみである。井戸内の共伴遺物は細片で量的にも少なく、直接的に時期決定をすることは難しい。しかし、周辺の遺構や、調査区西側で検出した曲物井戸枠をもつ井戸では、一三世紀末から一四世紀の土師器皿や珠洲焼擂鉢、古瀬戸、龍泉窯系青磁などが出土しており、木簡が出土した井戸も、これと同時期と考えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　・「のこるせに五貫六百文
　　あきなへのせになり　　」
　・「リセニノコト七貫七百文ハカヘ十月一日
　　ヲハラノケヲサフラヲタイフ　　」

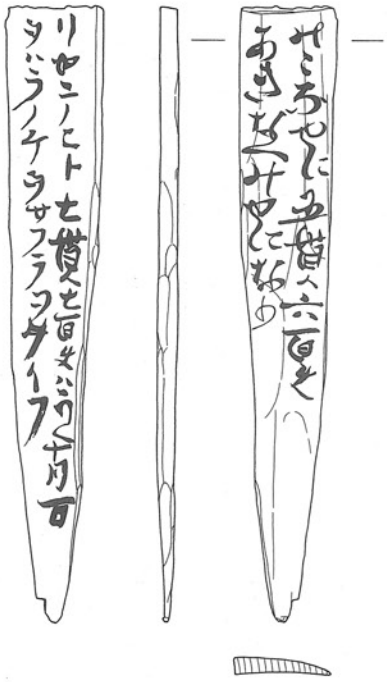
182×28×4　051

柾目材で、上端は表からキリ・オリ、さらに表から上端部分の角を落としており、下端を尖らせている。裏面は、上部からわずかに刃物を入れて割り、面調整を施していない。これは、恐らく木簡の製作にあたり、次のような技法が想定できる。すなわち、一定の厚さの短冊を用意し、次に表裏両面を調整し、下端を尖らせた後に、上部から刃物をわずかに入れて割り裂いて、二つの木簡を作り出すという方法である。

釈読で問題となる字体は、表では「る」、裏では「コ」と「ヲ」である。「る」は「な」（奈）に類似しているが、左行の「な」とは異なり、やはり「る」（累）とみなすべきであろう。裏の「コ」は「己」にもとづく片仮名、「ヲ」（乎）は「ウ」（宇）の字形に類似しているが、ここでは「ヲ」とみておきたい。また、裏の「セ」はオモテの平仮名の「せ」と同じ字体である。なお、表裏両面にみえる「貫」「百」「文」などの字体から判断して、表裏は同筆の可能性が高い。

内容的には、商売（あきなひ・「あきなへ」）の銭の出納に関わる付札木簡と解釈できよう。表は残金五貫六百文に付した付札であることを意味している。一方、裏は利銭七貫七百文を何かに替えたことを付記し、十月一日の日付と出納責任者と考えられる「ヲハラノケヲサフラヲタイフ」（三郎大夫）の名が記載されている。すなわち、残金の付札の裏面に、利銭の取り扱いを付記したと考えられる。

木簡の形状と字体にも注目する必要がある。丁寧に調整された表に残金納入の付札として平仮名で記し、ワリのままの裏に利銭の処理を申告する内容を片仮名で記載している点である。中世社会において、一般的に片仮名は口頭の世界を表記する機能を有するとされているが、本木簡の場合も、裏の片仮名で記した申告部分は口頭で



伝達されたと考えられる。ただし、現段階では、本木簡の具体的動きは本遺跡の性格とともに未解明な部分が多い。

なお、木簡の釈読にあたっては、国立歴史民俗博物館の井原今朝男氏・高橋一樹氏、石川県立図書館史料編さん室の瀬戸薫氏・木越祐馨氏からご教示を得た。

（1～7庄田知充、8平川　南〈国立歴史民俗博物館〉）

文化財写真に携わる人の必携マニュアル

『埋文写真研究』一四号

埋蔵文化財写真技術研究会編

巻頭言　西村　康

シンポジウム記録　「今なぜ銀塩か？」　編集委員会

白黒多階調印画紙での再現　井本　昭

デジタルデータからのネガ出力　玉内公一

ＤＴＰのための図面原稿　宮内康弘

新品ストロボの発色　中村一郎

他

在庫状況のお知らせ

頒価　一～四号　品切れ　五～八号　三五〇〇円

九号　三〇〇〇円　一〇～一四号　三五〇〇円

送料　一冊～四冊まで　五〇〇円

五冊～一〇冊まで　一〇〇〇円　一一冊以上　無料

ご注文は、当研究会まで直接お申し込みください。

ご送金は、郵便振替でお願い致します。

宛先　〒六三〇―八五七七　奈良市二条町二丁目九番一号

奈良文化財研究所気付　埋蔵文化財写真技術研究会

電話　〇七四二―三〇―六八三八

郵便振替　口座番号　〇一〇五〇―九―九九三〇

埋蔵文化財写真技術研究会宛